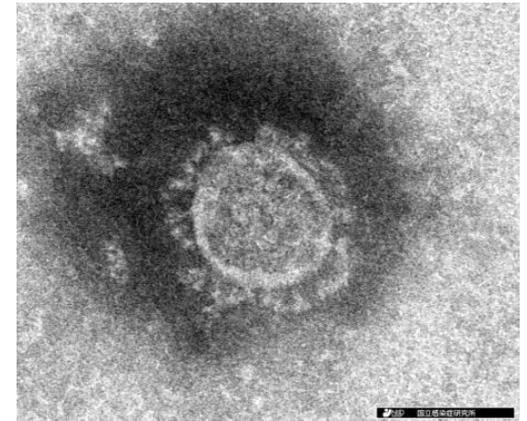


感染症対策研修会資料

(令和2年度)



国立感染症研究所HPから引用

(高齢者施設等における)

感染症の予防と 発生時の対応

(新型コロナウイルス感染症対策を含めて)



市立函館保健所
山田 隆良

その昔、こんな記事が出ていました！

2005年(平成17年)1月16日(日曜日) 中国新聞 395 (日経)

福山・特養

市保健所 「感染引き金か」

死亡者からノロウイルス

市保健所が、市立特別養護老人ホーム「福山」で発生したノロウイルス感染症の感染経路を調査している。死亡した6人のうち、5人がこのウイルスに感染していたことが分かった。市保健所は、このウイルスが感染を引き起こしたと見ている。

市保健所は、12月24日に発生した。このウイルスは、ノロウイルスの一種で、嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす。感染力が強く、集団感染しやすい。市保健所は、このウイルスが感染を引き起こしたと見ている。

市保健所は、12月24日に発生した。このウイルスは、ノロウイルスの一種で、嘔吐や下痢、腹痛などを引き起こす。感染力が強く、集団感染しやすい。市保健所は、このウイルスが感染を引き起こしたと見ている。

中国新聞

1月16日(日)

福山の特養 6人死亡

42人、下痢や吐き気

年末から 食中毒・感染症の疑い 市に届けず

「福山特養」でアズカと平飼を製し検査に入る広島済野の検査員

中国新聞社
電話082(2)26-0111(福山管内)
東京支社 03-5561-6177
ホームページ
<http://www.chu-ni.com>

中国新聞

1月8日(土)

中国新聞社
電話082(2)26-0111(福山管内)
東京支社 03-5561-6177
ホームページ
<http://www.chu-ni.com>

壇

三村松

松は松でも



(中国新聞から引用)

一緒に勉強
しようニャ!

本日の内容



○感染症とは何か

高齢者や施設に起きやすい感染症
感染の3要素と予防対策の考え方

「何ができるか」を考える

○主な感染症とその対策〔感染経路〕

ノロウイルスによる感染性胃腸炎
呼吸器感染症

新型コロナウイルス感染症を例に

集団感染の影響と 対策の目的

様々な病原体により感染症が発生すると、
流行・感染拡大により、

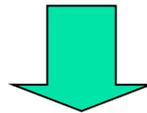
① 健康被害

(地域での流行, 時に死亡者・重症者)

② 事業活動への影響

(職員の健康被害, 運営困難, 風評被害)

これを防ぐには,



組織全体での取り組みが必要

ノロウイルス等は集団感染・食中毒を起こしやすい

実は 集団感染には「災害」対応！

不意の災害時に人のとる行動 (John Leach)

落ち着いて行動できる人	10-15%
我を失って泣き叫ぶ人	15%以下
ショック状態に陥り、呆然として何もできない人	70-75%

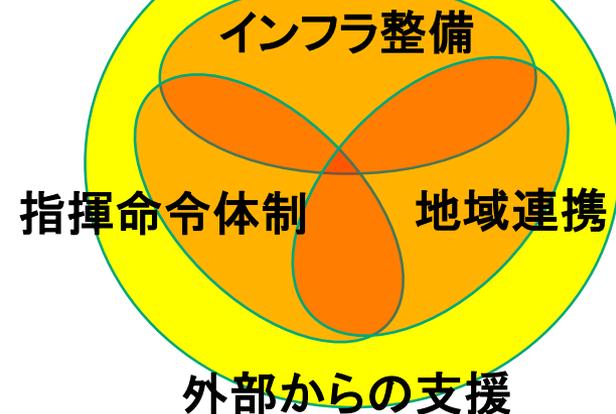


4つの基本的対応

- **「災害モード」への切り替え**
「日常の業務からの切り替え(延長)」
- インフラの活用(事前整備)
- 指揮命令系統(コマンダー)と連携
- 外部からの支援

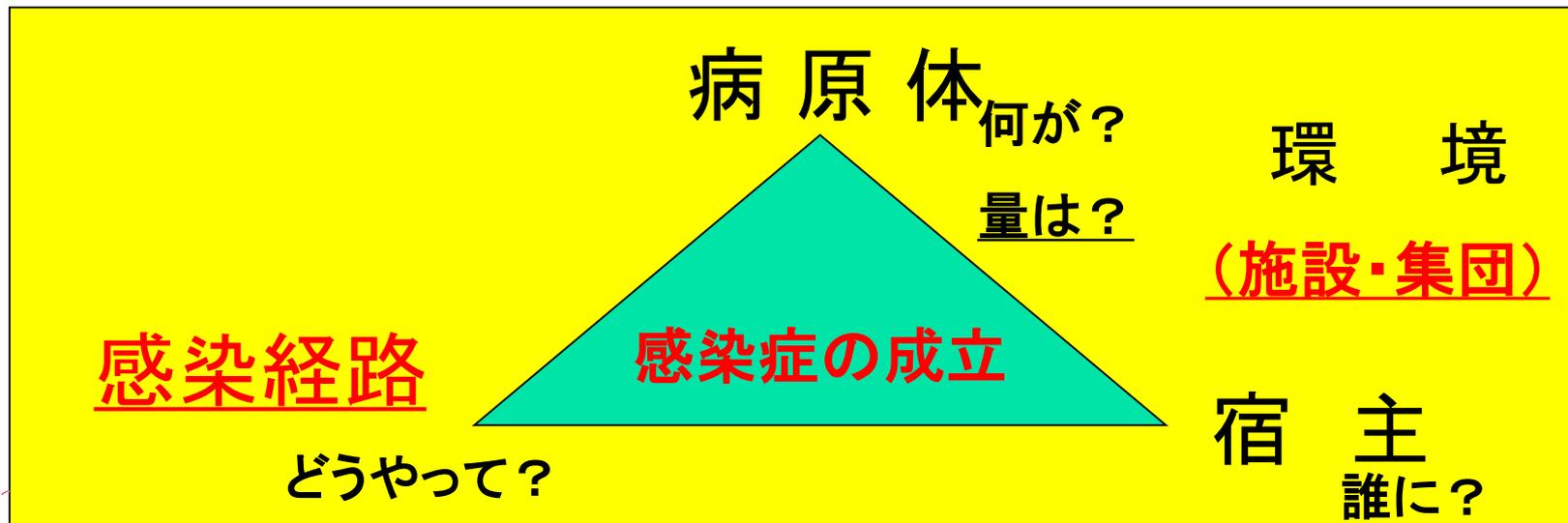
災害発生

災害モード
切替

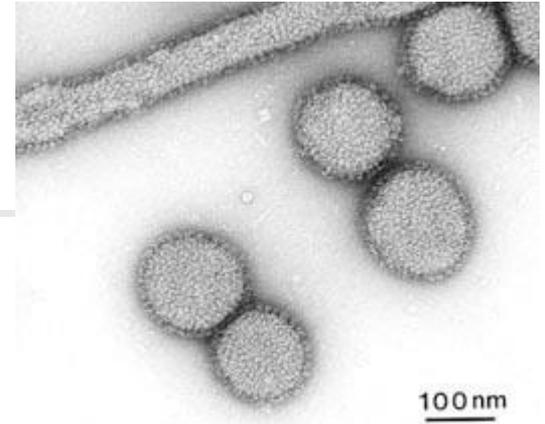


感染症とは何か

- 人体に有害な影響をもたらす病原体により引き起こされた病態
- 感染症の成立には3要素が必要



感染症の3要素



国立感染研HPから

● 病原体(感染源)

寄生虫、細菌、ウイルス、プリオン

● (主な)感染経路

経口: 赤痢, コレラ, O-157, ノロウイルス

飛沫・空気: 結核, インフルエンザ, SARS, 新型コロナウイルス

接触・媒介: MRSA, 狂犬病, 日本脳炎, 疥癬

血液・性行為: 梅毒, B型肝炎, AIDS

● 宿主(動物種)

年齢、性別、合併症・免疫状態(糖尿病・腎不全)

ワクチン接種

感染症の予防

- ★ 基本は正しい知識を得ること
- ★ 3要素のいずれかにアプローチ



- 病原体をなくす→抗生物質、滅菌・消毒

環境中のあらゆる病原体をなくすことは不可能

- 感染経路を断つ→手洗い・うがい、滅菌・消毒

さまざまな病原体に対応可能！！

- 宿主を強くする→ワクチン、検診・検査

対応可能な病原体が限られる

感染経路別の対策



標準予防策

清掃・消毒、空調・換気
手指衛生 (手洗い)
個人防護具 (ガウン、マスク)

予防が最大の対策！
可能なものは
ワクチン接種！



経口感染対策

上下水道
新鮮な食品
加熱調理
器具の洗浄消毒

空気 (飛沫) 感染対策

手洗い・うがい
マスク
換気

接触感染対策

手洗い
マスク・ガウン
室内等の清掃

血液 (性行為) 感染対策

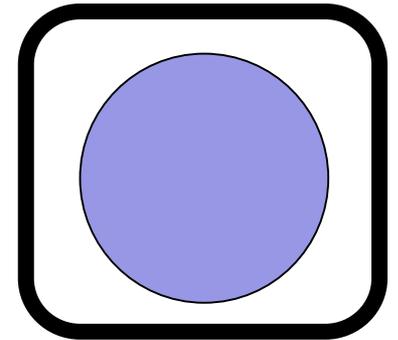
血液の衛生的処理
手袋の使用
皮膚等の消毒

全ての人は感染源
となる可能性がある
と考えて対策を講じること

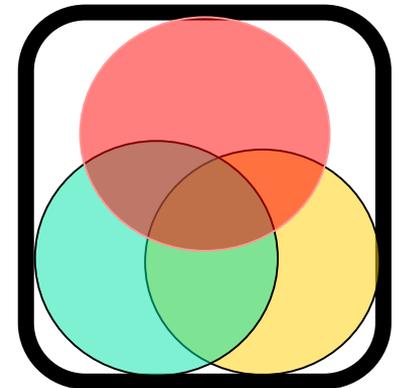
対策を考えるときには



- **実現可能な対策**を実施する
施設で実現可能な対策を考える
※「必ずしなければならない」対策はない
- **複数の対策**を組み合わせる
個々の対策に完璧を求めない
- **異なる角度からの対策**を検討する
病原体・感染経路・宿主対策を検討
- **集団と個人**の両方の対策が有用
みんなは一人のために、
一人はみんなのために



単独で完璧な対策はない



複数の対策を組合せると
効果が大きい 10

高齢者施設等の感染症

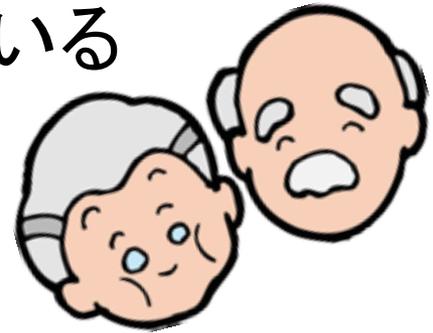
…公衆衛生の観点から見ると…

● 集団生活している・サービスを受けている

介護・支援者からの感染があること

長時間にわたり濃厚な接触をすること

飲食・設備・用具などを共用すること



● 感染症にかかりやすい・防御が困難である

外部から感染症を持ち込む可能性があること

糖尿病など合併症により免疫力が弱いこと

手洗い・マスクなどの防御が正しくできないこと

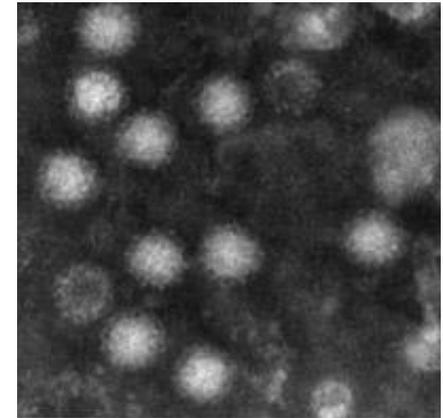
高齢者施設等で 発生しやすい感染症

- 経口感染（食中毒など）
O-157、ノロウイルス、A型肝炎
- 飛沫感染（空気感染を含む）
インフルエンザ、結核、
肺炎、新型コロナ
- 接触感染
疥癬、白癬、MRSA



ノロウイルスによる感染性胃腸炎

- **病原体**: ノロウイルス (小型球形のウイルス)
- **感染経路**: 経口感染 (接触, 空気)
- **宿主**: 免疫状態が悪いと重症化
- **潜伏期間**: 1～2日
- **症状**: 吐き気、おう吐
→ 腹痛, 下痢, 脱水
→ ときに発熱、全身倦怠感
- **治療法**: 脱水の改善
- **予防法**: 手洗い・うがい・食品の加熱など



(神奈川県衛生研究所HPから引用)

ノロウイルスによる事例①

- 前後して同じ飲食店を利用し、
カキ鍋を食べた2グループから、
ノロウイルスによる感染性胃腸炎による複数の患者が発生した。



- 発症者の家族には、発症者はいなかった。
 - 患者の便からノロウイルスが発見された
 - 調理従事者からは検出されなかった。
- ⇒ カキによる食中毒が強く疑われた。

ノロウイルスによる事例②

- ホテルでのダンス教室の忘年会後に、感染性胃腸炎が多発した。
- 忘年会は、ダンスの後に、同じ場所で会食した。
- 検便からノロウイルスが検出された。
- ノロウイルスは、フロアスタッフから検出されたが、調理員からは検出されなかった。
- 他のグループでは、異常はなかった。



⇒ 接触，または空気を介した感染が疑われた。

ノロウイルスによる事例③

- 施設内で、入所者13名がおう吐, 下痢した。最初の患者は食事中におう吐し、職員が片付けていた。
 - その後、職員・入所者が発症し、患者の便からノロウイルスが検出された。
 - 調理従事者には異常はなかった。
- ⇒ おう吐の処理後、介護者を介して拡大した接触による集団感染と考えられた。





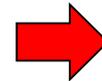
ノロウイルス感染の特徴

○感染力がきわめて強い

少量でも感染・発症する

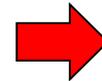
食中毒と集団感染のいずれも起きる

消毒薬が効きにくい



ノロウイルス対策が
他の感染症にも有効

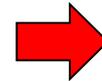
○1年を通して見られる



特に冬から春にかけて
注意が必要

○感染期間が長い

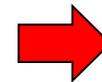
症状消失後も2～4週間、便中に
ウイルスを排出する



自覚症状がないまま、
ウイルスを排出

○再感染することがある

免疫の弱い者が発症・重症化しやすい
抗体ができるが、1年以内に消失



予防対策が重要
再感染もある

ノロウイルスの感染サイクル



集団での感染予防対策(例)

ノロウイルス流行期(冬期)における対策

- 職員・利用者等に対して、おう気、おう吐、腹痛、下痢等の消化器症状の有無を確認
- 流行時(前)に感染予防教育を実施
- 常に、手指衛生も忘れずに実施
- 報道、保健所HP等による情報収集
- 必要な物品の確保・備蓄
- 環境管理 室温:17-28℃
 湿度:40-70%



感染拡大防止対策(例)

(集団内で患者が発生したとき)

●周知

職員・家族等への周知・啓発
協力を要請(組織全体で対応)



●発症者への対応

症状がある者は、医療機関を受診し、診断を確定

●集団内での対策

集団内の消毒、手洗いの徹底

食品等に接する際の手洗い・洗浄等を徹底

●外部への対策

外来者の制限等によるウイルス持ち込み、拡大防止

物品備蓄の例

- マスク(不織布マスク)・手袋(使い捨て)
 - ・患者発生後の施設における消毒・環境整備等の際に使用
- 消毒薬など
 - ・塩素系消毒薬が有効
 - ・使い捨てタオル, ティッシュ, 新聞紙など
 - ・ビニール袋, バケツなど
- 石けん及び手指消毒薬
 - ・石けん(液体)で手指の洗浄を頻繁に実施
 - ・困難なときは手指消毒用アルコールを使用

